

自主性を育むための「7つの習慣」

皆さんはそれぞれに個性があり、別々の存在です。それぞれ自分がやりたいことを見つけられたら、自ら判断し、行動を起こすことができるようになります。自ら判断し、行動を起こすことは「自主性」が育ったということです。この自主性を自ら育むために、これから述べる「七つの習慣」を習慣化させましょう。

まず、第一の習慣は「自らの主体性を発揮する」ことです。自分が選択するということです。例えば、どんなことでも人のせいにするのではなく自分自身の問題として考えることです。

第二の習慣は「目的を持って始める」ことです。自分なりの考え方をしっかり持って、例えば、将来のなりたい自分のために学校がどんな意味を持つのかを考えることです。

第三の習慣は自分で自分を管理する「自己管理する」ことです。最も大切なことを優先し取り組むことです。自分にとって大事なことは何なのかを理解し、やるべきことの優先順位を、考えられるようになることです。

第四の習慣は、自分も他人もどちらも得をする「Win-Winを考える」ことです。Win-Winとは双方どちらも勝つような解決策を見つけるということです。相手に対する思いやりと自己を主張する勇気をあわせ持つことです。

第五の習慣は、まず相手を理解し、次に自分を理解してもらうこと、即ち「理解してから理解される」ことです。聴く力を身につけて、まずは、相手の言い分を聞くことで、気持ちの良いコミュニケーションができるようになることです。

第六の習慣は、周りとは協力し合うこと、「相乗効果を発揮する」ことです。よりよい答えを導き出すためには、周りとは協力しあうことが必要です。周りとは協力し合うことで、一人の力よりも大きな力を生み出せるようになります。

最後、第七の習慣は、「自分を磨く」ことです。自分を磨き高め続けることで、自分自身に誇りを持つことができるようになります。

「自らの主体性を発揮する」「目的を持って始める」「自己管理する」「Win-Winを考える」「理解してから理解される」「相乗効果を発揮する」「自分を磨く」この七つを習慣化させましょう。